

小坂英世著作目録

著書

1966年

『精神衛生活動の手引き』日本看護協会出版部

1970年

『精神分裂病患者の社会生活指導』医学書院

1972年

『患者と家族のための精神分裂病理論』珠真書房

『精神分裂病読本——改訂版・精神衛生活動の手引き』日本看護協会出版部

共著書

1970年

『市民の精神衛生——社会のなかで精神病を治す』勁草書房（共著者：岡田靖雄）

分担執筆

1966年

「疾病管理の実際」江副勉編『精神障害の発見と管理』（医学書院）所収

1970年

「地域精神医療の展開」加藤正明編『公衆衛生看護双書 13 精神衛生』（医学書院）所収（金松直也との共著）

1971年

「リハビリテーションの技術論——精神分裂病の場合」江副勉監修『精神科リハビリテーション』（医歯薬出版）所収

翻訳書（河村高信と共訳）

1958年

『精神分裂病の心理』（シルヴァーノ・アリエティ著）牧書店（1966年改訂版）（書評, 針塚進 [2008年]）『神

経症と創造性』および『精神分裂病の心理』『臨床心理学』第8巻, 764 - 767 ページ)

雑誌論文 (単著)

1960年

「精神分裂病患者の家族関係の研究 (第1報)」『医療』第14巻, 259 - 272 ページ (博士論文)

「精神分裂病患者の家族関係の研究 (第2報)」『医療』第14巻, 354 - 360 ページ (博士論文)

1962年

「在宅 (退院) 患者の訪問指導をどう進めるか」『保健婦雑誌』第18巻, 57 - 60 ページ

1963年

「栃木県における精神病患者の管理」『精神医学』第5巻, 569 - 573 ページ

「栃木県における精神病患者の管理」『厚生指標』第10巻, 26 - 29 ページ

1964年

「栃木県における精神病患者の管理」『公衆衛生』第28巻, 163 - 167 ページ

1965年

「精神障害に対する疾病管理 (その1)」『看護』第17巻10号, 81 - 86 ページ

「精神障害の疾病管理 (その2)」『看護』第17巻11号, 77 - 84 ページ

「精神障害の疾病管理 (その3)」『看護』第17巻12号, 177 - 182 ページ

1966年

「精神障害の疾病管理 (その4)」『看護』第18巻1号, 87 - 92 ページ

「精神障害の疾病管理 (その5)」『看護』第18巻2号, 89 - 95 ページ

「精神障害の疾病管理 (その6)」『看護』第18巻3号, 169 - 173 ページ

「精神障害の疾病管理 (その7)」『看護』第18巻4号, 79 - 82 ページ

「精神障害の疾病管理 (最終回)」『看護』第18巻6号, 151 - 157 ページ

「精神病院の機能と限界」『精神医学』第8巻, 583 - 587 ページ

「家族会のあたらしいあり方について」『病院精神医学』第13号, 111 - 115 ページ

「精神衛生と行動科学 生態学派の立場から」『公衆衛生』第30巻, 504 - 507 ページ

「地域精神医学における問題点 (地域精神医学 その理論と実践 (第63回日本精神神経学会総会シンポジウム))」

『精神医学』第8巻, 816 - 819 ページ

1967年

「精神衛生相談員とサイキアトリック・ソーシャルワーカーについて」『看護』第19巻7号, 46 - 52 ページ

「ルポルタージュ・看護研究グループの活動 精神医療とコミュニティ」『看護学雑誌』第31巻8号, 44-47
ページ

「シルヴァーノ・アリエティ『精神分裂病の心理』」『看護技術』第13巻10号, 61-64 ページ

「地域精神衛生行政の現状と諸問題 精神衛生相談員制度をめぐって」『保健婦雑誌』第23巻11号, 30-33
ページ

1968年

「保健婦活動への発言1 訪問指導に思うこと」『保健婦雑誌』第24巻1号, 56-56 ページ

「保健婦と患者家族を友として」『公衆衛生』第32巻, 103-106 ページ

「保健婦活動への発言2 よく"みえる"ためには」『保健婦雑誌』第24巻2号, 65 ページ

「自分の歌をうたうこと」『保健婦雑誌』第24巻5号, 57 ページ

「『シロウト』の知恵に学ぶ」『保健婦雑誌』第24巻6号, 53 ページ

「マリアモンテッソーリにおもう」『保健婦雑誌』第24巻7号, 57 ページ

「ヘルマン・ブールという男」『保健婦雑誌』第24巻8号, 55 ページ

「竜の夢」『保健婦雑誌』第24巻9号, 61 ページ

「コロンブスの船出」『保健婦雑誌』第24巻10号, 65 ページ

「島は東京を向いていた」『保健婦雑誌』第24巻11号, 61 ページ

「三歳児検診」『保健婦雑誌』第24巻13号, 61 ページ

1969年

「廃用性萎縮」『保健婦雑誌』第25巻1号, 65 ページ

「自分の歌を守るためには」『保健婦雑誌』第25巻3号, 61 ページ

「母と子の精神衛生 精神分裂病の家庭背景」『助産婦雑誌』第23巻4号, 68-69 ページ

「精神衛生とは」『保健婦雑誌』第25巻4号, 72 ページ

「母と子の精神衛生 ダウン候症群について」『助産婦雑誌』第23巻5号, 60-61 ページ

「症状は重要か」『保健婦雑誌』第25巻6号, 55 ページ

「看護相談室 妄想・幻覚のある精神科患者」『看護学雑誌』第33巻6号, 58 ページ

「母と子の精神衛生 精神薄弱の早期発見について」『助産婦雑誌』第23巻7号, 64-65 ページ

「通院医療について」『保健婦雑誌』第25巻7号, 52 ページ

「母と子の精神衛生 こういう育児もある」『助産婦雑誌』第23巻8号, 64-65 ページ

「家族会について」『保健婦雑誌』第25巻8号, 61 ページ

「母と子の精神衛生 精神分裂病患者と生活 その1」『助産婦雑誌』第23巻9号, 64-65 ページ

「精神分裂病患者の家族」『保健婦雑誌』第25巻9号, 64 ページ

「精神衛生教育について」『保健婦雑誌』第25巻10号, 80 ページ

「母と子の精神衛生 精神分裂病患者と生活 その2」『助産婦雑誌』第23巻10号, 66-67 ページ

「母と子の精神衛生 精神分裂病患者と生活 その3」『助産婦雑誌』第23巻11号, 48-49 ページ

「再発は宿命か」『保健婦雑誌』第25巻11号, 65 ページ

「母と子の精神衛生 精神分裂病患者の家族」『助産婦雑誌』第23巻12号, 60-61 ページ

「入院についての考え方」『保健婦雑誌』第25巻12号, 62 ページ

1970年

「母と子の精神衛生 精神科薬物療法と性的機能」『助産婦雑誌』第24巻2号, 60 ページ

「クスリづけ」『保健婦雑誌』第26巻2号, 64 ページ

「母と子の精神衛生 精神分裂病患者と無月経」『助産婦雑誌』第24巻3号, 60-61 ページ

「精神分裂症患者の身体的疲労」『保健婦雑誌』第26巻3号, 72 ページ

「精神分裂病の初発」『保健婦雑誌』第26巻4号, 62 ページ

「症状があってもいいのではないか」『保健婦雑誌』第26巻5号, 62 ページ

「“肥りすぎ” という現象」『保健婦雑誌』第26巻6号, 62 ページ

「精神衛生」『公衆衛生』第34巻7号, 416-421 ページ

「薬物の投与方法について」『保健婦雑誌』第26巻7号, 62 ページ

「患者は再発に対して成長するのか」『保健婦雑誌』第26巻8号, 54 ページ

「いかほど薬を飲んでも」『保健婦雑誌』第26巻9号, 54 ページ

「生活と作業」『保健婦雑誌』第26巻10号, 62 ページ

「一刻一秒を争う」『保健婦雑誌』第26巻11号, 62 ページ

「Schizophrenogenic な家族」『保健婦雑誌』第26巻12号, 64 ページ

1971年

「精神分裂病患者の弱点」『保健婦雑誌』第27巻1号, 58 ページ

「教育者の役割」『保健婦雑誌』第27巻2号, 36 ページ

「分裂病患者の強がり」『保健婦雑誌』第27巻2号, 50 ページ

「ある試み」『保健婦雑誌』第27巻4号, 62 ページ

「ある家族の手紙」『精神医療』第2巻1号, 95-101 ページ

口頭発表

1960年

「第14回国立病院療養所総合医学会精神神経科分科会 精神分裂病患者の親子関係」『医療』第14巻 (Supplement), 240-256 ページ (246 ページ) (共同発表者: 河村高信, 村瀬孝雄, 真下弘, 加藤正明, 佐治守夫, 片口安史, 竹村和子, 田頭寿子, 高柳信子)

1987年

「駆水剤による精神病治療」『日本東洋医学雑誌』第37巻, 345 ページ

雑誌論文（共著）

1957年

「作業療法の治療効果判定に関する研究」『精神衛生研究』別巻第1号, 45-49 ページ（共著者：分島俊, 清水寿, 津金沢政治）

1959年

「精神科領域における Perphenazine の使用経験」『内科の領域』第7巻, 542-550 ページ（共著者：松本胖, 鈴木秋津, 佐々木司郎, 田中穂積, 山上龍太郎, 石川鉄男）

「精神分裂病の新しい6分類——BeckのThe Six Schizophreniaについて」『ロールシャッハ研究』第2号, 202 ページ（共著者：河村高信）

1960年

「治療社会における人間関係の研究・精神科職員の意見調査のころみ」『精神医学』第2巻, 595-602 ページ（共著者：加藤正明, 中川四郎, 岡田敬蔵, 竹村和子, 徳江富士弥）

1966年

「精神衛生活動を進めるにあたって」『看護』第18巻3号, 150-167 ページ（共著者：外間邦江他）

1969年

「未熟児検診について（第1報）」『東京都衛生局学会誌』第42号, 59-61 ページ（共著者：野原清水, 桜井達男, 村上増子, 山口輝彦）

1970年

「現代精神病院論」『保健婦雑誌』第26巻7号, 30-35 ページ（共著者：岡田靖雄）

「入院の適応が地域側と診療所側でくいちがった症例について」『地域精神医学』第5号, 14-19 ページ（共著者：浜田晋, 松浦光子他）

1986年

「胃炎に対する香砂平胃散加芍薬エキス製剤の臨床評価」『現代東洋医学』第7巻, 107-116 ページ（共著者：野岡正憲, 松田邦夫, 杵渕彰, 山田光胤）

1988年

「イメージと文化に関する研究」『甲南大学総合研究所所報』第7号, 3-4 ページ（共著者：市川浩, 河合隼雄, 藤岡喜愛他）

小坂教室テキストシリーズ（謄写版印刷）

1971年

- 「患者と家族のための精神分裂病理論」小坂教室テキストシリーズ No.1 (1971年11月17日時点での理論。手書き)
- 「続・患者と家族のための精神分裂病理論」小坂教室テキストシリーズ No.2 (1971年12月20日時点での理論。手書き)

1972年

- 「精神分裂病治療における通院治療と入院治療」小坂教室テキストシリーズ No.3 (1972年1月25日記。手書き)
- 「精神分裂病治療におけるクスリの意議」小坂教室テキストシリーズ No.4 (1972年1月25日記。手書き)

1973年

- 「再発の研究」小坂教室テキストシリーズ No.5 (1973年9月6日記。手書き)
- 「抵抗とイヤラシイ再発の研究」小坂教室テキストシリーズ No.6 (1973年9月28日発行。手書き)
- 「再燃, 症状の動揺, 症状の進行, 症状の増悪および初発の研究」小坂教室テキストシリーズ No.7 (1973年10月15日発行。手書き)
- 『コドモ扱い』『オトナ扱い』小坂教室テキストシリーズ No.8 (1973年11月16日発行。手書き)

1974年

- 「過去の分析(その1)」小坂教室テキストシリーズ No.9 (1974年2月22日発行。手書き)
- 「患者の手紙に関する注意」小坂教室テキストシリーズ No.10 (1974年2月25日発行。手書き)

1976年

- 「私の病因論と治療法」小坂教室テキストシリーズ No.11 (1976年6月3日発行。タイプ印刷)

1977年

- 「小坂から患者諸君に」小坂教室発行の1977年10月20日付リーフレット(手書きコピー)

インタビュー

- 看護学雑誌編集室(1970年)「小坂英世先生に聞く 自己消滅活動こそ医療の論理」『看護学雑誌』第34巻1号, 20-24ページ

対 談

- 小林八郎（1971年）「対談 分裂病の家族論」『保健婦雑誌』第27巻5号, 10-21 ページ
遠藤周作（1986年）「漢方でこそ, 精神病が治せる」『私の見つけた名治療家32人』（祥伝社）所収
佐々木豊文（1991年）「能力開発医療を語る!」『The New Brain』第3巻4号, 2-5 ページ

座談会, パネルディスカッション

- 1966年 「座談会 精神分裂病の保健指導ではなにが重要なのか」『保健婦雑誌』第22巻3号, 12-20 ページ（同席者：土屋節子, 吉岡啓子, 石原幸夫）
1967年 「現地座談会 医師・保健婦のチームワーク 群馬県に聞く活動の実際」『保健婦雑誌』第23巻11号34-50 ページ（同席者：江熊要一, 中沢正夫, 杉村一光, 桂アグリ, 内堀千代子, 西本多美江, 田島かつ江, 手塚ユキ, 大手謹子）
1970年 「座談会 精神科患者と家族」『看護学雑誌』第34巻4号, 108-116 ページ（同席者：岡田靖雄, 稲岡文昭, 竹村堅次, 松浦光子, 藤明朱美）
1971年 「精神医療と精神病院 5 精神病院の外来診療」『病院』第30巻5号, 59-67 ページ（同席者：金子嗣郎, 渡辺宏）
1971年 「パネルディスカッション 精神分裂病者の社会復帰のための活動の総括に役立つために」『医学評論』38号, 1-24 ページ（同席者：菱山珠夫, 岡上和雄）

書 評

- 中川四郎, 木下安子（1966年）「精神衛生活動の手引き・看護の思想」『保健婦雑誌』第22巻8号, 60-61 ページ
中川四郎（1966年）「評書 精神衛生活動の手引き」『看護』第18巻7号, 96-97 ページ
岡田靖雄（1970年）「〔書評〕小坂英世著「精神分裂病患者の社会生活指導」」『精神医学』第12巻, 1008 ページ
岡田靖雄（1971年）「〔書評〕小坂英世著『精神分裂症患者の社会生活指導』」『病院』第30巻, 110 ページ
笠原嘉（1974年）「小坂英世著『精神分裂病読本——精神衛生活動の手引』」『精神医学』第16巻, 630-631 ページ

追試研究

- 国分牧子（1975年）「『小坂理論』に基づく精神分裂病の再発研究」上智大学大学院教育学専攻修士論文
浜田晋（1975年）「〔症例16〕分裂病同胞例」岡田靖雄他編『精神科症例集 上巻』（岩崎学術出版）所収
浜田晋（1975年）「〔症例17〕分裂病（女・三三歳,もと会社員）」岡田靖雄他編『精神科症例集 上巻』（岩

崎学術出版) 所収

浜田晋 (1975 年) 「〔症例 18〕 分裂病 (女・一九四三年五月うまれ)」岡田靖雄他編『精神科症例集 上巻』
(岩崎学術出版) 所収

笠原敏雄 (1976 年) 「精神分裂病患者の防衛機制」『東大分院神経科研究会誌』第 2 号, 78-92 ページ

笠原敏雄 (1980 年) 「内観による症状消失の心理力動に関する一考察——症例を中心として」『第三回日本
内観学会発表論文集』(日本内観学会事務局) 所収

栗本藤基 (1980 年) 「分裂病者の母親に内観を施行しての一考察」『第三回日本内観学会発表論文集』(日本
内観学会事務局) 所収

紹介, 引用

保健婦雑誌編集室 (1967 年) 「グラフ 在宅精神障害者に光を! ——東京都における医師と保健婦の訪問活
動」『保健婦雑誌』第 23 卷 11 号, 2-8 ページ

園田よし (1970 年) 「精神分裂病の立場から——病院は牢獄である」『保健婦雑誌』第 26 卷 10 号, 15-
19 ページ

日本看護協会編集部 (1971 年) 「医師と患者の相互信頼によって建てられた小坂診療所」『日本看護協会機
関誌』第 23 卷 8 号, 口絵

高杉晋吾 (1971 年) 「家族を治療者に, 患者の人権回復を——東京あけぼの会の活動を探る」『保健婦雑誌』
第 27 卷 5 号, 22-26 ページ

川上武 (1971 年) 『ちくま少年図書館 14 いのちを守る——医者のだたかい』筑摩書房 (149 ページ)

小林ユキ子, 小宮勇, 宇津野ユキ, 貴志芳子, 林義緒, 船越治子, 山岸春江 (1973 年) 「私のやっている保
健婦活動 (2)」『保健婦雑誌』第 29 卷 10 号, 58-67 ページ (65 ページ)

鈴木浩二 (1978 年) 「家族精神療法」懸田克躬他編『現代精神医学大系 精神科治療学 I』(中山書店) 所
収 (『患者と家族のための精神分裂病理論』について, 370 ページ)

浜田晋 (1985 年) 『こころ医者の記』毎日新聞社 (81 ページ)

大崎浪子, 菅谷美樹, 半田由美, 本橋律子 (1985 年) 「地域の中で住民のために——渡辺富子さん (栃木)」『保
健婦雑誌』第 41 卷 4 号, 258-265 ページ (259 ページ)

松橋俊夫 (1989 年) 「精神病と腹症」『日本東洋医学誌』第 40 卷, 55-57 ページ

浜田晋 (1994 年) 『心をたがやす』岩波書店 (101-102, 109, 201 ページ)

笠原敏雄 (1999 年) 「精神科病院での経験」『春秋』第 411 号, 25-28 ページ

笠原敏雄 (2000 年) 「無視される事実群」『春秋』第 418 号, 20-23 ページ

笠原敏雄 (2004 年) 『幸福否定の構造』春秋社 (第 2 章)

笠原敏雄 (2010 年) 『本心と抵抗』すびか書房 (231-232 ページ)

林直樹 (2010 年) 「『小坂理論』に見る精神療法の『理論』」『精神療法』第 36 卷, 776-778 ページ

笠原敏雄 (2011 年) 『加害者と被害者の“トラウマ”——PTSD理論は正しいか』国書刊行会 (第 6 章)

末田邦子 (2011 年) 「精神衛生相談所の活動実態に関する研究——全 54 か所の検討から」『社会福祉学』
第 52 卷, 123-134 ページ (129 ページ)

笠原嘉（2012年）『精神科と私——二十世紀から二十一世紀の六十年を医師として生きて』中山書店（53ページ）

笠原敏雄（2014年）『幸せを拒む病』フォレスト新書（第5章）

笠原敏雄（2020年）『人間の「つながり」と心の実在』すぴか書房（第4章）

批判

藤沢敏雄（1971年）「過渡期の悲劇——小坂英世氏に関するおぼえ書き」『精神医療』第2巻2号, 118 - 122 ページ

広田伊蘇夫（1971年）「もちあじ論への疑問——園田よし氏（あけぼの会）との関連から」『精神医療』第2巻3号, 87 - 90 ページ

浜田晋（1983年）『街かどの精神医療』医学書院（204 - 206 ページ）

浜田晋（1986年）「小坂療法と私——小坂流家族療法の再検討」大原健士郎, 石川元編『家族療法の理論と実際 1』（星和書店）所収

浅野弘毅（1995年）「小坂療法の波紋」『精神医療』第83号, 61 - 66 ページ〔浅野弘毅（2000年）『精神医療論争史』批評社（第7章）再掲〕

浜田晋（2001年）『私の精神分裂病論』医学書院

浜田晋, 川上武（2001年）「対談 臨床日記からみる戦後病人史——『私の精神分裂病論』が提起したもの」『週刊医学界新聞』第2443号

川上武（2002年）「地域精神医療への道 小坂英世——分裂病者の治療」川上武編著『戦後日本病人史』（農文協）所収

浜田晋（2005年）「小坂理論の後始末」『精神医療, 第4次』第39号, 98 - 102 ページ

浜田晋（2010年）「小坂英世という男」『精神医療, 第4次』第59号, 153 - 162 ページ